

令和3年度熊本市エイズ総合対策推進会議議事録（要旨）

開催日時：令和3年（2021年）10月5日（火）午後2時～4時

開催方式：Zoomを利用したオンライン方式

出席委員：13名（敬称略、○は新任委員）

松下修三（会長）、前田ひとみ（副会長）、久保昌子、杉野茂人、田中弥興、井手州子、
椎葉浩亮、夏木良博、福島隆弘、○瀬田朋子、川田晃仁、柿田将博、川口弘蔵

欠席委員：7名（敬称略、○は新任委員）

丸目新一、卯野木妙子、猪本浩之、宮崎奈那海、吉村譲二、○吉田紳一、高山いくこ

次第

- 1 開会
- 2 所長挨拶
- 3 委員紹介
- 4 会長挨拶

エイズ総合対策推進会議を担当させていただいてもう16年になります。今回、委員の先生方の顔ぶれを見て、若い方が多いなと改めて感慨深い思いがあります。以前は若手だった私も1番上の年代になりました。

今、エイズの問題はコロナに隠れていて、もう新たな感染は問題ではなくなったのではないかという話を聞くこともあります。以前と変わらず新規感染例は発生しています。また、コロナ感染を疑って、発熱外来を受診された方でHIVの急性感染が見つかる例も報告されています。コロナ対策で保健所の人員が不足する中、受検者の検査控えもあり、検査数が少なくなっていますが、今後、ウィズコロナ・ポストコロナの時代に、検査や予防の普及をどのように再構築していくかが大きなテーマです。エイズは、治療法が進歩したとはいえ、新規感染が起こらない世界を目指し、今後も対策を立てていくべきだし、研究を推進すべきだと思います。この目的に向けて、この地域で何ができるかは、今日、先生方と相談したいと思います。感染予防や検査の普及に向けて活動するのは地域なので、地域の皆さんのご協力によって感染症対策は行われるものだと思います。よろしくお願いします。

5 講話「エイズの現状と課題」

熊本大学ヒトレトロウイルス学共同研究センター 臨床レトロウイルス学分野 教授 松下修三氏から、「エイズ/HIV感染症の基礎、発生動向、世界の最新情報」についてご講話いただいた。

(質疑応答)

【川口委員】

コロナが話題になり、PCRなど郵送の医療の検査があるということが世間一般でも浸透してきたように感じるが、やはり制度の問題、例えば郵送検査で陽性になった場合のアフターケアをどうするか等、固まっていないので踏み切れない状況なのでしょうか？

【松下会長】

いろんな議論がある。血液を自分で採取して専用のろ紙にしみこませて検査センターに送るシステムだが、採血行為とみなされるのかどうか、当局内部でも議論されている。国が認可した検査法であれば、精度管理など細かいことが議論されている。現在のところ、郵送検査の研究は、東京などのNGOの協力のもとに、厚労省の研究班で行われており、それに準じたやり方で、一般化したらいいと思う。厚労省の担当者が4月から別の方に変わり、その後はあまり進んでいない。

【川口委員】

ありがとうございます。今の状況だと、保健所での検査に以前よりもアクセスしにくい状態だと思うので、郵送検査があるといいと思います。よろしくお願いします。

【松下会長】

ご指摘の通りです。いくつかのやり方が出て来ると思う。保健所は無料匿名でやっているが、郵送検査を無料匿名でできるかどうかが問題。もしかしたら少し負担をいただくことになるのかもしれない。

【前田副会長】

PrEP（曝露前予防内服）の話ですが、実際にいろんな国で使われる時に、ここに関わる費用は誰がどのように支払われているのでしょうか？

【松下会長】

日本エイズ学会として厚労省に要望書を提出している。まずは、医療としての公知承認が受けられれば、少なくとも医療費の一部は保険で賄われることになる。しかしながら、予防薬代は、患者負担となると考えられ、ジェネリック医薬品を購入されることになると思う。外国の場合は、各国の事情による。ロンドンのディーンストリートでは、PrEPの予防薬を無料で配っている。これは、国の機関の臨床研究の一環と聞いているが、被験者は登録する必要がある。感染予防研究に参加している人は、自分のスマホを登録して、必要事項についてタッチパネルを用いて自分で選択して、必要があれば採血のキットがボンと出てきて、看護師さんが来て採血するというシステム。薬局も併設されており、PrEP

の薬をもらうことができる。本当に驚いたが、B型肝炎のワクチンもHPVワクチンも無料で受けられるらしく、多くの参加者が集まっている。その他、タイは国王からお金が出ていて、台湾はたしか国のお金が出ている。先生の御質問は非常に大事で、感染者を増やさないのが国の目標であれば、PrEPにも十分お金を出す意味があるし、今、コロナウイルス感染症には、検査も治療も無料にしているが、感染症の検査は基本的に国が負担して、安くすることが大事だと思う。そういう意味で、PrEPに係るHIV検査も国が負担しているのではないかと思います。国によって対応は違ってきます。あともう一つ、オーストラリアはパッケージです。薬局で薬と検査を込みで定額にしてあったと思います。3か月分で100ドルぐらいの値段です。自己負担はあるが、検査まで含めてパッケージでやっていると分かりやすいと思います。

【杉野委員】

高齢者について。私たち開業医は日常診療していますが、先生方の手を離れて、ART（抗HIV薬）をずっと中断せずに飲んでいけばいいのですが、飲まなくなって自分で判断出来なくなり他の疾患の診療だけ受診している、薬を勝手に中断してしまっている、そういうケースはあるのでしょうか？

【松下会長】

ゼロではありません。熊本は比較的少ない方だと思います。年間でいうと多くて1～2例。ほとんどの方がきちんと通院されています。日本全体でいうと、一定の病院に通院していない症例があると聞いています。様々な臨床試験を見るとやはり、5%ぐらいの症例で通院が不安定なようです。ですから、感染者の総数が増えれば増えるほどそのリスクがあることになります。

【杉野委員】

認知症も伴って、先生方の手から離れて自宅で勝手な生活をしてしまう人がこれから増えてきた時に私たちがやるべきことは何かということを考える、という意味で先生のお話を聞かせていただきました。またそういう注意点とかありましたらよろしく願いいたします。

【松下会長】

中には保護を要する精神病の方がいらっしゃいます。自立出来ない、家族もいるが家族ではケアしきれないような症例があります。このような方は、精神科にご入院されている状況ですが、こういう方々が入所できる施設は全く整備されていません。エイズがあり他の感染症があり、そして精神病もある、これに高齢となってくれば、受け入れ施設はほとんどないのが実態です。精神病の有病率は100人に1人ぐらいですから、HIV感染者

が、220人もいればやっぱり2人ぐらいは、精神病合併の症例が認められます。それから、重症の鬱病の症例もあります。そういう方は病院にも来なくなります。家族やパートナーのように、寄り添ってくれる人がいるといいですが、本当に1人の方もいらっしゃいます。今日は熊本市の皆さんも出てらっしゃるので福祉課の仕事を一つ増やしてしまうかと思いますが、力を合わせて、そういう方々ができるだけ、自分の思うような生活ができるようにしてあげられればと思います。お金もかかることだからどのくらいできるかわかりませんが、非常に大事な点です。

6 議事

議事進行：松下会長

資料に沿って、事務局（感染症対策課）から説明

- (1) エイズ及び性感染症の発生動向
- (2) 平成30年度～令和4年度 HIV 感染および性感染症の予防対策（計画）
- (3) 熊本市エイズ対策に関する令和2年度報告及び令和3年度計画

【松下会長】

梅毒報告数が103件もあって、これを10件に減らそうという計画ですが、何か方法を考えているか。今でも利便性の高い検査体制が構築されていると思うが、さらに利便性の高い検査体制をどのように構築するのか、日本各地で梅毒が増えているが、どうやってこれを減らすのか。手だてがどこもされてないように思うが、何か特別な手だてを考えているか。

【事務局（感染症対策課）】

効果的な特別な手だてというとなかなか難しいが、やはり年齢層を見ると、10代・20代の若い世代の方も多いので、青少年対策のところで、HIVと一緒に啓発していく、教育の場に情報を取り入れる必要があると思います。

【松下会長】

性感染症はコロナと違ってワクチンが出来ない。性病はコンドームをすればいいというふうに済ませるのは難しい。それでうまくいっていないわけだから。5ページの梅毒の報告をみると、熊本市は各年代にいる。誰がアクティブだかはっきりわからない。アクティブな方に啓発すべきだろうとは思いますが、見つかっているのが、氷山の一角だから減らないのではないかと思う。何かやはり、全国的に広くキャンペーンをしたほうが良い。これは性感染症学会の方がやるべきことだと思っている。コロナ禍で、あまり人の交流がない

にも関わらず梅毒が増えているので、そこは行動心理学か何かの先生方に入ってもらって、何か対策が必要かもしれないと思う。

【事務局（感染症対策課）】

梅毒は、発生届が出されるときに、風俗の利用歴等、記載いただくようになっていて、おそらく国も取りまとめて、データとしてもうそろそろ出てくる可能性もある。実際に、発生届を受け取り、思ったよりも風俗の利用歴のある方が多いような感覚はありますが、そのような数字的なところを見ながら、対策を立てていければと思っている。

【松下会長】

まずは疫学調査が大事なので、どこで感染が起こっているか、最近、宮崎かどこかでもそういう噂があったが、こちらは女性が多かったかと思うが、そういう意味では、感染を広げている誰かを特定するということではなく、やはりどういうところでキャンペーンをしたらいいかという検討はすべきだと思います。梅毒は検査して治療することが出来ますから。できるだけそういうリスクのある方が早く検査できるような体制を整えられるのが確かにいいと思う。

【井手委員】

熊本市エイズ対策事業、資料の4の3ですが、市内中学校に配られたDVD、見せていただきましたが、いい内容で、やはり教育現場でこういう若い人の教育をしていくのはとてもいいと思う。DVDを見た反応は何かあったのでしょうか。研修報告書による内容理解度の把握と書いてあるので。出前講座ではなくてこのDVDを見て特に何か、反応がもしわかれば教えてください。

【事務局（感染症対策課）】

御利用いただいた学校から、「授業で活用できるものであった」、「生徒の相談内容に一步踏み込んで話をすることができるようになった」、「保健所やその他の相談機関があるということを生徒に伝えられたことがよかった」等の御報告をいただきました。また、生徒さんの感想では、学校を訪問して出前講座を行った時と同じように、「感染しても症状が出ないことがあるということを初めて知った」、「検査の大切さ、検査をすることの必要性を感じた」、「自分には関係ないと思っていたが、そうではないんだということがわかった」等の内容が見られました。

【松下会長】

そういう題材をつくって話題にしてもらうこと、生徒間の間でもそういう話をするのが大事かと思う。何かそういう秘密じゃなくタブーみたいにしなくて、やっぱり話すのが大事だと思うので、非常に良い機会をつくっていただいたかと思う。

【前田副会長】

大人にどうやっていろんな情報を届けるかというのも今までの課題になっていたかと思うが、そういう中で今回、報告の中に様々なウェブを使っているとのことで、いろんなことが今、変わってきている中で、このインターネットを使ってというのが一つのポイントになってきていると思うと、このDVDをご家族で見ってもらうことも可能なのかなと思った。その辺は学校のハードルがどうかというところはあるが、御家族にも見ってもらうと、保護者にもそれが伝わっていくのではないかと。何かそういう仕組みづくりもやっていってはどうかと思っている。何かそういうのは計画されているか。

【事務局（感染症対策課）】

以前、学校を訪問して出前講座を行った時に、保護者の方が参加されることもありました。今回、いただいた報告書の中にも、配った資料を自宅に持ち帰り保護者にも見せるように先生から生徒に伝えたとの内容がありました。自分の親と性についての話をすることは、子供にとってはかなりハードルが高く、話しにくい部分があるのではないかと思います。そのような中で、このDVDが親子をつなげる一つのツールとなるかもしれないので、今後そのような方法も考えていければと思います。

【前田副会長】

在宅とか、分散登校とかいろいろとありましたので、何か上手に使えればと思いました。

【事務局（感染症対策課）】

例えば学校の先生方に実際に使っていただき、感想など色々情報交換をしていくことで、実際にお母様方、お父様方に配布資料をつくって、一緒に持たせてから御案内とか、そういった方法についても、先生方と相談しながら形が出来ていくと、もっと有効に使えるのではないかと思います。

【松下会長】

相談検査体制の充実については、結局来てもらわないと駄目だと思うが、来られてないということですか？保健所の方が確かに利便性の問題はあって、火曜から木曜の9時から11時までですかね今は。

【事務局（感染症対策課）】

以前が、月曜から金曜の午前と午後に検査を行っていたので、実際に予約受付数が少なくなっているのがありますが、コロナの感染が拡大したことによる受検者の検査控えもあります。実際、予約枠は大体ほぼ毎日埋まっていますが、枠がいっぱいで検査を断る人数が増えているとの実感はありません。コロナの感染状況が落ち着き、検査希望者が増えてきた時に、それに合わせて枠数を増やし、また少しずつ受検者数は増加していくのではないかと思います。

また、新型コロナの体制で保健所の1階に新型コロナ対策課が出来て対応している状況ですが、コロナの検査体制の整備に伴い検査室を共有することになり、動線の確保や、スペース的なものでなかなか体制がとりにくい現状もあります。今後、人と物、動線の確保状況次第で、受付枠を増やしていくなど、担当職員間でも検討しているところです。

【松下会長】

目標の検査数が1780件となると、何かそういうことをしなければ、出来ないということ。東京はいろんな検査をするところがあるから、少し余裕があるというか、あまり検査数が減ってないところもある。ある意味地方の保健所が1番影響を受けているんじゃないかと思う。それが、要するに地方でエイズ発症者が相対的に増える理由ではないかと思う。今後、外部委託は考えているか。

【事務局（感染症対策課）】

外部委託については、現在、他自治体の情報を集めているところですが、体制として今すぐに実施できる状況ではございません。今後、何らかの形でそういった外部委託を取り入れて検査枠の確保ができればと検討している段階です。

【松下会長】

多分、1番簡単な方法はそれだと思いますので増やして、出来ないところは外部委託をする。これは厚労省のほうでもディスカッションがあったんですがなかなか外には出てこない話で、一部の地域では導入していると思います。

7 意見交換

【松下会長】

ここからは全体の意見を聞く時間です。委員の先生方から何か御意見、御質問、それから今回の議題以外のことでもエイズ対策に関することであれば、どういう御助言でも構いません。皆さんとお会いして会議をするときは全員に一言ずついただくところですけども、時間的な余裕がないのではと思いますがいかがでしょうか。

【田中委員】

歯科医師会では、厚生労働省から「歯科医療において考えるコロナとエイズ」というパンフレットをいただき、会員に配布している。エイズは、通常の我々の感染予防で十分予防できる、感染リスクは少ないということを、以前松下先生よりお伺いしましたので、コロナの感染予防をやっていけばまず大丈夫だということは理解している。こういったパンフレットを使って会員に対して啓発している。

【松下会長】

患者の中には口腔内病変が出ている人がいます。カンジダ症や白板症。気づかれる先生もいらっしゃるみたいなので、何かポスターでも貼っていただき、今は治療がよくなっているし、こういう症状があったら保健所でのHIV検査に行くと、治療が簡単に進みますと、保健所検査を勧めていただくといいかなと思う。口腔内症状があってもそのままスルーされてしまうこともあるようなので。

【田中委員】

白板症とかそういうのは、結構気にして、検査を熊大にお願いして回すことは、会員もやっているようです。他の病変も考えられますので、がん病変の前駆症状として会員はみんな気にしておりますので、エイズのことも会報や機関誌に記載して載せておきます。

【松下会長】

感染者が減っていないのとエイズを発症して見つかる人が増えている。要するに HIV に感染は増加している可能性があると思います。HIV に感染して、軽い口腔内症状だけで何年間も歯科の先生のところに行っている場合もありますから、早期発見の一つのきっかけになると思う。

【井手委員】

やはりITでいろいろ知らせていくのが重要な時代になっていますが、MSM対策で熊本市の公式ラインによる情報発信、一般市民には熊本市公式ツイッターで定期的に情

報発信とあるんですが、ラインの場合は、熊本市のラインに登録しないといけないんですよね？それは関係者だけのラインになるんですか？私は熊本市の健康アプリに登録していますが、そこにも配信されますか？

【事務局（感染症対策課）】

熊本市の公式ラインに登録しないと配信されません。登録する時に、年代と性別を選択するシステムになっているため、20代から50代の男性の方にのみ記事が配信されます。

【井手委員】

対象者を限定して送っているんですね。前田先生の話にもありましたが、御家族が見れるので、流してもいいのかなと思いました。

【椎葉委員】

今、栄養士会の活動自体がとても少なくなっており、広報活動がなかなか出来ない状況ではあるが、Zoomを使った勉強会をやっているので、その休憩時間の合間に、エイズ関連の1、2分のDVDみたいなものがあれば流すことができると思う。個人的に、エイズ検査に行くとなったとき、心配になったり不安になったり、怖くなる方がたくさんいると思うが、エイズ以外の性感染症であれば検査を受けてみたいと思う方がいるんじゃないかと思う。エイズ以外の性感染症の検査のついでにエイズじゃないんですが、そういった検査の取組みは出来ないのかなと思いました。

【事務局（感染症対策課）】

実際に梅毒やクラミジアなどのエイズ以外の検査を希望する方もいますが、今はターゲットを絞り、エイズを中心に検査を受け付けています。今後、検査枠を拡大できる状況になれば、また別のやり方も検討できるかもしれません。

また、短時間の動画については、今年度、区役所の窓口番号案内モニターに出す広告を作成しましたが、今後、委員の皆様が情報発信としてご利用いただけるような内容の動画を作成しご提供できればと考えています。

【夏木委員】

やはり子供たちサイドからの意見啓発の方が、保護者サイドからよりも有効だと思う。昨年、小国高校でアンケートをとったところ、子供からの相談はほぼ10%以下という話があった。やはり高校生でも直接相談するのは難しい中、議論を深めるために子供がまず、その情報に触れるという方向性で、特に今後は1人に1台タブレット端末が配られる環境で、情報共有はかなり進むと考えているので、こういった面から情報を発信することで

対策を進めてはどうかと考えます。

【松下会長】

子供たちは一人一台タブレットを持っているから、むしろ以前より伝わりやすくなったかもしれない。

【福島委員】

啓発物、パンフレットを学校の性教育の授業のタイミングに合わせて配布とあるが、実際にどんな時期に配られるのか？

【事務局（感染症対策課）】

以前は出前講座で学校を訪問した時に、ミニパンフレットをその日のうちに生徒の皆さんに配布していましたが、昨年度はDVDと一緒にお送りし、学校の先生方のタイミングで配布していただいています。

【松下会長】

やっぱりそれぞれの先生方の向き不向きがあるので、訪問の方がたぶんいいのではないかなと思うが、先生方の研修会みたいなものはあるんでしょうか？性教育の研修会があればいいですね。

【事務局（感染症対策課）】

昨年いただいた報告書の中に、職員間の研修で使用したという内容がありました。あとは、DVDもためになったが、できれば訪問による出前講座をまたお願いしたいというご意見もいただきました。やはり、今後のコロナウイルスの状況を見ながら、訪問型の出前講座の再開についても検討していかなければならないと考えます。

またDVDを見てもらったあとに、ウェブで意見交換を行う方法もあると思いますのでその点についても検討していきます。

【瀬田委員】

私は今、聾学校に勤めています。聾学校でも、以前、保健所から来ていただいて、本日いただいている資料の内容で講演会をしていただきました。やはり対面で直接顔を見て話を聞いたり、保健所の方のお仕事を知るということで、とてもメリットはあったと思う。今はちょっと対面では難しいと思うが、先ほどのちょっとした短い映像を、もし提供してもらえれば、各教室にテレビが設置してあるので、ちょっとした隙間時間に流したりできると思う。子供達は、発達段階がそれぞれ違うし、1回だけ情報を知らせるだけではなかなか入っていかないの、繰り返し、私達も伝えていかないといけないと感じている。

【川田委員】

もう1年以上経済活動が止まっているにも関わらず、感染者数は減っていないことがちょっとショックだった。普及啓発が必要という話があったが、商工会議所でも、会報を毎月7000社ぐらいに送っている。この中でいろんな情報を届けるコーナーがあるので、事務局とまた改めて相談して、「検査を受けてください」などの記事を掲載して周知ができるかと思う。改めてまた相談します。

【柿田委員】

今は集会は出来ないので、多くの人がいる場面で広く周知することがなかなか難しい状況。私の団体でも会報を出しているので、その中での周知、特に私たち労働団体には、現役世代のいわゆるお父さんやお母さん、そういった方が多いので、その子ども、20代の娘さん、息子さんなどに、周知するきっかけになっていけばいいと思う。

【川口委員】

セーフティーブランケットとしては、コロナの影響もあり、交流会などももう随分、長いこと出来ていないので、個人的にHIV、エイズ検査、特例検査などがあるときに、個人のSNSを通じて、情報を流している。また少し落ちついたら、熊本市保健所や熊大病院の先生方と共同で交流会や勉強会を実施したいと思っている。

今日の話の中で思ったのは、ゲイバーなどの従来のコミュニティーもコロナの影響でやはり動きがかなり少なくなっている。もう随分昔からエイズに関してはゲイコミュニティー、ゲイバーとかでそういった話題というのが一つだったが、エイズが語られる場所が減っているのかなと思う。具体的に実際の数とか、いつごろからかというはっきりしたデータはないが、個人的な肌感覚としては、予防啓発、早期発見・早期治療を呼びかけたい若年層の同性愛者のコミュニティーというのは、ゲイバーなどの集団でのコミュニティーの場所からSNSでの個人のつながりなどに変化してきているのではないかというのもあり、そこも踏まえた従来と違った情報の届け方というのが今後必要になってくるのではないかと思う。個人的に学校で高校や大学とかに、LGBT普及関連の話などで呼ばれることもあるので、先ほどの短い動画映像、エイズ検査のお知らせのような短い動画だったり、3分から5分位の短めの映像、短編だけど必要な内容が伝わるものというのが、DVDでなくても例えばユーチューブとか、取り込めるデータとして、提供してもらえらなら、そういったLGBT関連の講話の中でもエイズの情報を届けることができると思う。エイズの検査、早期発見・早期治療というのを、他の病気と同じように伝えてもなかなか当事者に届きにくいところがあると思うし、いろんな広告物に載せるのも、情報としては必要と思うが、同性愛者クローゼット、自分がゲイであることを隠してる人がまだまだ多いし、特に地方ではその傾向が強いので、この当事者が広報などに載っているものを目にしたときに、どう感じるか、より一層、ばれたらまずいんじゃないか、自分の仕事だ

ったり、居場所がなくなるのではないかというふうに思われたいような情報の発信の仕方が必要になってくると思った。また今後もそういった当事者視点で、何か伝えられることがあればさせていただく。

【松下会長】

福岡にも、熊本にもそうですが、各県各地に前向きなリーダーの方々がいるから、もう少しネットワークを広げればいいのかと思います。熊本在住でも、福岡に活動拠点のある MSM の方もいるので、そういうネットワークが出来ないかなと少し思っているところです。まずは、熊本のローカルで拠点を川口さん中心に広げて、若いゲイの方々に啓発をしていただきたいと思う。

7 閉会